

「アルマ計画」 評価の視点（論点・考慮すべき事項）について（案）

1．参加遅れの不利克服について

本計画への参画は、欧米の建設開始から遅れての参加になるが、一般的に、遅れて参加する場合、不利な立場での参加となる懸念がある。本計画への参画の場合、それらの不利を克服し、存在感を示すことができるのか。どのようにして不利を克服すべきなのか。また、たとえ不利な状態であっても、参画すべきなのか。

2．サブミリ波における優位性の活用について

サブミリ波に関する技術については、我が国が世界最高レベルのものを有しているとのことであるが、この技術を活用して参画するのであるから、我が国が本分野でリーダーシップを発揮するとともに、欧米に対して、建設費の割合以上の優位な立場になるように、参加すべきではないか。また、どのようにすれば、リーダーシップを発揮し、優位な立場で参加できるのか。

3．我が国としての貢献について

本計画は大規模な国際共同プロジェクトであることから、国内的には、本計画の意義や成果を国民に対して十分に、かつ、分かりやすく説明するとともに、国際的には、特にアジア諸国との連携を図り、推進していくことが必要ではないか。例えば、日本発の新しい国際連携プロジェクトなどを考えていくことが重要ではないか。